

13  
2003.5

# 薬友会報

千葉大学薬友会

歴史の上に建つ薬学部研究棟 - 第I期工事の着工 -



猪鼻城跡（千葉大学亥鼻地区構内遺跡）発掘調査区全景



現地説明会（2002年8月5・8日実施）



前方後円墳の石室



須恵器



木棺直葬墳から出土した直刀

薬友会会长挨拶	2	研究室紹介	7
医学薬学府長挨拶	2	クラス通信	8
退官に際して	3	支部だより・亥鼻会・ みのはな山岳会・サークル紹介	12
新任教授挨拶	3	学部だより	13
21世紀の千葉大学像	4	学会賞受賞者・主催学会一覧	13
亥鼻キャンパス移転について	4	博士学位授与一覧	14
特集：亥鼻構内の旧薬学部校舎跡地より 発見された前方後円墳	5	教職員の異動	15
萩庭標本データベース作成協力会	6	薬友会より	15
教育研究振興基金へのご協力お願い	6	生涯教育セミナー	16
新会員名簿発行に向けてのお願い	6	編集後記	16

薬友会会长挨拶

山本 恵司



眺め床しき亥鼻ヶ丘にはいよいよ新校舎がその威容を現わし始めており、本年度は西千葉地区からの移転の前半部分が実施されます。引き続く第2期工事の早期着工を各方面に要請しており、本年中にはその目途をつけ本学開学の地での新しいスタートを1日でも早く迎えられるよう努力したいと思っております。今年は国立大学にとりましては最後の年となり、来年度からは国ではなく国立大学法人により設置される大学となり、組織・運営などが大改革されます。現時点で何がどのように具体的に変わらるのか定まっていないのが実情であり、しばらくは制度作り・改革に伴う見なおし作業に忙殺される事が予想されます。教育・研究は?予算は?学生定員は?教員の配置は?果ては給料は大丈夫?まで疑問形の課題が山積しております。また薬学6年制の実施も決定段階にいたっておりますことはご承知のとおりです。今後、薬友会会員の皆様には薬学教育とりわけ実務実習へのこれまでにも増してのご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。極めて流動的な状況下ではありますが、大学の本分である教育・研究の充実をおろそかにする事は許されず、千葉大学大学院薬学研究院・薬学部に対する社会からの期待にお応えできるよう構成員一同頑張って行く所存であります。今後共のご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

医学薬学府長挨拶

石川 勉



2003年4月より2代目の医学薬学府長としての責務を担うことになりました。学府は医学と薬学の大学院教育を担当する部局で、学府長と副学府長は医学研究院と薬学研究院からそれぞれ交代で担当することになっております。ご存知のように2004年の国立大学独立法人化を控え、大学は大きな転機を迎えようとしております。大学が生き残って行くためには、これをチャンスとして捕らえ、積極的に活用するしかありません。

現在大学院修士課程には、入学定員を越える100名ほどの学生が在籍し、その数は学部学生を上回ります。本学部からの進学率も高く、平成13年度が74%、平成14年度が84%で、増加傾向にあります。近年大学院でもシラバス（講義概要）が作成され、タイムスケジュールに沿った講義が行われておりますが、さらに基礎教育カリキュラムを整備充実（例えば、医学と薬学の教員が連携して一つの講義を担当する「医薬横断型授業」の導入など）し、医薬連携大学院の特性を活かした講義を積極的に開講する必要があると思われます。一方博士課程の学生は、必ずしも多くありません。一層の研究活性化を図り、学生にとってより魅力ある研究環境を提供することで、博士課程への進学率を高められないかと考えます。さらに、大学院は高度生涯教育機関として、社会人を対象とした夜間授業の開設など教育サービスの改善にも努める必要があるでしょう。

今薬学教育は、6年間教育に移行しようとしています。それに伴い大学院教育も変わるのは必至です。ゆとりの教育と学力低下も盛んに議論されておりますが、一般に教育はスパンが長く、かつ成果が見え難いため、評価が困難です。しかし、見える形で世の中にアピールする大学院の教育体制の構築に向け、微力ながら努力したいと考えております。会員の皆様には、どうぞ叱咤激励の程よろしくお願い申し上げます。

## 退官に際して

生体分析化学研究室 今成 登志男



私は昭和31年に本学部に入学し、卒業実習は薬品分析化学教室で過しました。卒業後の進路に迷って、指導教官の坂口武一先生のお世話になり、さらに1年間専攻科生として大学に残りました。当時の坂口教室の助教授は山根靖弘先生でしたから、ご性格の違う二人の先生に指導を受けることになり、公私の生活にも接して大いに勉強になりました。研究室は自由で個性豊かな環境にあり、常に新鮮な感じでした。研究生活に憧れて分析化学の道に進むことを決意しましたが、千葉大学には大学院が設置されておらず、東京大学大学院に入学し薬学部の田村教室に所属することになりました。大学院生活は何と楽しかったことか。院生の中には、自分の研究テーマに夢中で周囲に目を向かない人も勿論おりましたが、殆どの院生は心豊かにのびのびと実験を進めています。私が実験に行き詰まっていると一緒に真剣に考え、一日中手伝ってくれる友人 also いました。恩師、先輩達のアドバイスを受けながら、研究生活を続け、千葉大学に戻ってからも周囲の人的環境に恵まれて、いつも悩みは解決されました。しかし、ここ10年間の社会的・経済的変化により大学も大きな変革を余儀なくされております。文科省が中心になって「競争的環境の中で個性が輝く大学」を目指して組織の改革を迫っています。「競争的」とは同じグラウンドで先行することではなく、他人とは異なる分野で、自分の得意とする道を選び努力することなのだと私は解釈しています。本学部は教育組織の大改革を断行し、猪之鼻キャンパスへの移転が進められており、2004年度には特別独立行政法人化が予定されていますが、まだ姿が見えておりません。今こそ、人ととの出会いと人の和を大切にし、自信を持って良い面を積極的に進めて、本学部がさらに発展されますよう心から祈っております。最後に薬友会の皆様のご支援に感謝し、ご健康をお祈り致します。

## 新任教授挨拶

戸井田 敏彦



平成15年4月より、今成登志男先生の後任といたしまして母校の生体分析化学研究室を担当いたすことになりました。薬友会報の紙面をお借りいたしまして皆様にご挨拶申し上げます。

生体分析化学研究室は、平成13年4月に薬品分析化学研究室から名称変更いたしました研究室です。私は先々代の坂口武一先生最後の卒業研究生であり、今成登志男先生には修士課程、博士後期課程、また職員といたしましてご指導いただいてまいりました。

時代の流れで、研究の対象が医薬品から生体物質に変化し、何が、どこに、どれだけあるのかを知るという分析化学の基本に、今では、なぜあるのかという生理的役割を解明するという目的が加わりました。現在はノーベル賞で有名になりました質量分析、核磁気共鳴測定装置など機器分析法を中心に、糖タンパク質、糖脂質、プロテオグリカンといった複合糖質糖鎖の構造と機能の解明を行っております。かつてはタンパク質や脂質などの生命にとって重要な分子に、あたかも意味のない(?)アクセサリーのように結合していると考えられていた糖鎖でしたが、最近では細胞の分化・増殖を制御するだけでなく、細胞間ネットワークを構築する重要な分子として認識が変わってきました。糖鎖は、タンパク質と異なり直接遺伝子に制御されない数少ない生体内分子の一つです。しかし生体内に見出される糖鎖は決して乱雑ではなく、規則正しい構造を持っています。また、その糖鎖配列一つ一つが、私たちの言語に相当するような意味合いを持つことも少しづつですが明らかになってきました。免疫系、神経系、内分泌系といった重要な生命活動の中核に糖鎖が関わるといつても過言ではありません。

遥か彼方に新しい医薬品の創製を夢見て、若い力を信じ歩んで行く所存です。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をこれまで同様賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



平成16年4月より国立大学は“国立大学法人”に衣替えすることが予定されている。この組織転換により、まず第一に大学は親方日の丸から民間的な経営視点が求められるようになる。組織としてはこれまで以上に学長、学部長の強いリーダーシップが求められるようになる。従って、選考方法を慎重に考え、有能な学長、学部長を選ぶことが、その大学、学部の発展に繋がるキーポイントになる。また、文部科学省は、これを機にあまり強い統制をせず、大学自体の自由な発想を伸ばす施策をとり、この組織転換を成功させていただきたいと思っている。

第二に、6年間の目標・計画を策定し、将来像を明確にし、教育・研究を行うことになる。そして、自己評価、外部評価を行い、次の6年間の目標・計画を策定することになる。この制度はこれまで比較的自由に教育・研究生活を送っていた大学人にストレスを強いることになるが、私個人としては、大学人はこれを機に教育・研究の発展は如何にあるべきかを真剣に考え、ステップアップを図るべきと思っている。

第三に、COE (Center of Excellence) が各研究分野で選定され、大学間に競争原理を導入し、教育・研究の活性化が図られている。考え方には賛成であるが、その選考基準は必ずしも一定ではなく、現場で少なからず混乱がみられる。しかし、COEに選定された大学が研究において優位に立つだけでなく、高校生の大学選択の基準の一つとなると考えられるので、千葉大学として如何なる分野であれ、COEに採択されるよう懸命に努力しているところである。

薬学部固有のこととしては、平成16年に約半分の研究室が亥鼻キャンパスに移転することになる。薬学部は医療人としての薬剤師育成の重要性を認識し、全国の大学に先駆けて大学院修士課程に医療薬学専攻を設け、現在は大学院は医学部と一体となった医学薬学府となっている。この亥鼻移転を機に、社会に役立つ薬剤師の育成と共に、研究の一層の飛躍を願ってやまない。また、組織に関しては真剣に論ずるが、教育・研究の中身の充実に関する討論が不足しているように思う。学生の能力を引き出すには如何にすべきか、研究のレベルアップを如何に図るか真剣に考えるべき時機に来ていると思う。

## 亥鼻キャンパス移転について：経過および現状報告（その1）

校舎問題検討委員長 石川 勉

会員の皆様には、当薬学研究院（薬学部）が亥鼻キャンパスに移転することは、前号（12号）で五十嵐先生が特集記事で触れられておりますので、ご存知のことと思います。今回はその後の進行状況について報告致します。

本移転は第一期と第二期の2回に分かれます。その第一期工事に先立ち、2002年5月より千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会が発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代終末期（約1,400年前）に構築されたと考えられる前方後円墳などが発見されました。この経緯は、本号表紙写真および特集記事をご覧下さい。

2002年9月12日に第一期工事の安全祈願祭が、磯野学長を始め亥鼻地区部局長ならびに工事関係者が出席して行われました。竣工は2003年10月の予定です。工事は順調に進行しており、2003年4月現在4階部の骨組みまで完成しております。

さてその建物ですが、敷地面積262,149m<sup>2</sup>、建物面積1,456.74m<sup>2</sup>、延床面積11,393.70m<sup>2</sup>で、地上10階地下1階の鉄筋コンクリート造りです。これは「医学薬学総合研究棟」ということで、医学研究院と薬学研究院が共同して使用しますが、一部全学共用（レンタル）のスペースもあります。地下部と10階部は設備スペースで、1階から6階の半分までが薬学研究院の専用スペース、6階の半分がアイソトープ施設、7階と8階半分が全学共用スペース、そして残る8階半分と9階は医学部主体の遺伝子施設として使用する予定です。

第一期に移転する研究室は、主として生物、薬理、医療系の13研究室で、実際の引越しは2004年3月の予定です。しばらくは亥鼻移転組と西千葉残留組とに分かれ、不便を強いられます。なお、学部学生の講義や実習は移転が完全に終了するまで、基本的に西千葉キャンパスで行われます。



# 亥鼻構内の旧薬学部校舎跡地 より発見された前方後円墳

千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会

千葉大学亥鼻構内を含む地域は、中世にこの地で活躍した千葉氏の居城とされる「猪鼻城跡」として千葉市指定史跡の認定を受けている。2002年度その範囲において、医薬系研究総合研究棟が建設されることになり、事前に発掘調査を実施した。建設予定区は、1918（大正7）年に薬学部校舎が建設されたところであった。薬学部は、1966（昭和41）年に西千葉構内に移転したが、旧校舎の「屋根飾り」は今でも薬学部講堂のたもとに大切に保存されている。

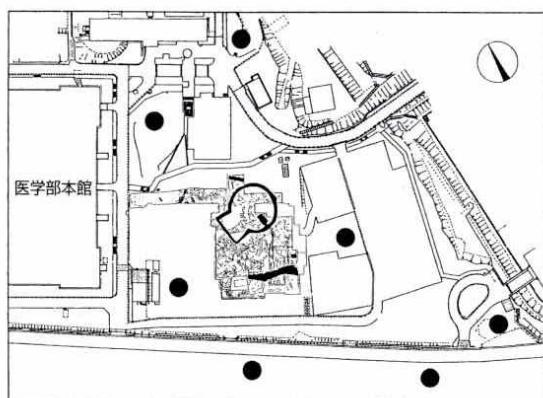
調査によって検出された遺構は、弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴住居跡 7軒、前方後円墳 1基、木棺直葬墳 1基、溝状遺構 6条、有天井土壙墓 4基・土壙 8基などである。これらから調査区内は、弥生時代後期～古墳時代前期にかけては「集落」、古墳時代後期以降は「墓域」として利用されていたことが判明した。出土した遺物の時期は旧石器時代～近代にわたっているが、文献資料に記載された猪鼻城跡の時期のものは皆無に等しかった。遺構の多くは、1707（宝永4）年の富士山噴火に伴う火山灰混じりの土層の直下に発見された。この事実は、古墳時代終末期～江戸時代初期にかけて何らかの意図から土地が大きく削られるなどして、その後火山灰が、遺構群の上に降り積もったということを示している。薬学部校舎が新築された当時は、すでに古墳の存在を示す墳丘などは削平され失われていたのである。

今回の調査で特筆されるのは、前方後円墳が発見されたことである。全長は28mと推定され、形態はいわゆる帆立貝型である。埋葬施設の石室は横穴式で、軟質砂岩の切り石を積んで構築されていた。石室内の基底面から人骨や歯、覆土からは金銅製の耳環（耳飾り）が出土した。石室内における遺物の少なさは、盜掘が行われた結果と判断されよう。古墳の周囲を廻る周溝からは鉄製の轡（馬具）や刀子（小刀）、7世紀前半に比定される須恵器の甕などが出土した。また周溝の内部では墓壙と考えられる有天井土壙墓・土壙が1基ずつ検出された。これらから判断すると、古墳の時期は古墳時代終末期の7世紀前半に位置づけられる。別の溝状遺構からは、7世紀前半に比定される須恵器や金銅装の鏡板の吊金具・飾り鉢（馬具）などが出土し、有天井土壙墓・土壙も各々2基ずつ検出された。溝の平面形態はゆるやかにくびれており、前方後円墳の周溝である可能性がある。この他に時期は検討中であるが、木棺直葬墳がある。その埋葬施設内からは、棺の固定に用いられたと考えられる粘土が検出され、直刀 1振、鉄鎌（矢じり）12本が出土した。

今回の調査の成果は、7世紀前半に比定される前方後円墳、古墳の周溝と考えられる溝状遺構、木棺直葬墳が検出されたことである。猪鼻台において從来知られていなかった前方後円墳が、「七天王塚」に取り囲まれるような位置で発見された意義は大きい。七天王塚には千葉氏の守護神・牛頭天王が祀られ、「配置が北斗七星の形である」という説や、「猪鼻城の土塁の残存部」などの説、「平将門の七騎武者の墓」などの伝承がある。調査の成果からみて七天王塚は、「残存している古墳群の一部」である可能性が指摘されるのではないだろうか。

発見された前方後円墳は、眼下に東京湾や都川を望む台地上に位置している。それは海上・河川交通の要衝を押さえた豪族の存在を物語るものであろう。

（文責：千葉大学文学部考古学研究室 松井 朗）



発見された前方後円墳と七天王塚（●）の位置

(S=1:4,000)

## 萩庭標本データベース作成協力会

インターネット上に一般公開した萩庭標本データベース（下記Webサイト参照）が学術的にも活用されています。国立医薬品食品衛生研究所・薬用植物栽培試験場の関田節子場長が標本資料室に来られ、萩庭標本を実際に見て、局方生薬の鑑定に利用されました。また、さく葉標本は千葉大学の宝物として認識されつつあり、かつ国立博物館等からの当サイトへのリンクの打診もあり、その重要性がクローズアップされています。

役員改選が行われ、5年の長きに渡り会長を勤められた西川文雄氏（昭和20年卒）に代わり福原正氏（昭和33年卒）が新会長に、佐藤弘子氏（昭和34年卒）、西井戸惇子氏（昭和34年卒）が副会長にそれぞれ選出され、新執行部の下さらなる協力体制を推進することとなりました。

今まで本事業に御寄付頂いた净財は累計2,827,000円となりましたが、今後のさらなる維持保管活動のため、薬友会の皆様に净財を募ることとなりました。皆様の心温かい御支援をお願い申し上げます。

（妹尾 修次郎、池上 文雄）

ホームページアドレス：<http://www.sakuyou.p.chiba-u.ac.jp>

浄財振込先：みずほ銀行 喜多見支店 普通口座名

萩庭標本DB作成協力会 内田尚子

口座番号 1799400

### 萩庭さく葉コレクション



レブンウスユキソウ  
(1966年7月)

千葉大学大学院薬学研究院の標本資料室には、故萩庭丈壽千葉大学名誉教授が主に日本全国で採集し作製した約5万点に及ぶ我が国の自生顯花植物のさく葉標本が保管されています。「萩庭さく葉コレクション」は、それらの標本群について、植物名と学名、科名、採集地、採集年月日等を網羅した上、標本の写真もデジタル画像化して収録した総合データベースです。

キーワードから調べる

植物名から調べる

English

採集地・採集時期を限定して調べる



ツクシムレスズメ  
(1974年5月)

### 亥鼻新校舎完成・移転記念 教育研究振興基金へのご協力お願い

ご承知のように千葉大学大学院薬学研究院では、平成15年度内の亥鼻地区新校舎第1期工事完成を待って、およそ半分の研究室が移転する計画です。これを記念して表題に記しました教育研究振興基金設置事業計画を薬学研究院・薬友会共同で立案中でございます。先人の皆様の努力によって築かれてきました千葉大学大学院薬学研究院の教育・研究成果をさらに発展させること、さらに世界に通用する人材の育成を目的に基金の活用を考えております。基金設立の際は、どうぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

（文責：山本 恵司）

### 名簿委員会からのお知らせ 新会員名簿発行に向けてのお願い

本年度秋頃に、新しい名簿発行を予定しております。住所変更や平成11年度版会員名簿の記載内容に誤りがある場合は、連絡カード（名簿綴じ込み）あるいはFAXにて至急ご連絡下さい。（担当研究室：微生物薬品化学研究室、高屋明子 FAX番号：043-290-2929）。ご連絡の際には、（1）氏名のふりがな、（2）勤務先のふりがなと電話番号を忘れずにご記入下さるよう特にお願いいたします。人名索引と勤務先別索引をコンピューターにより作成しますので、ふりがなが間違っておりますと、正しい位置にお名前がでてきませんのでご注意ください。又、新名簿には広告の掲載を予定しておりますので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

# 研究室紹介

## 活性構造化学研究室



活性構造化学研究室は、石橋正己（教授）、藤本治宏（助教授）、奥山恵美（助教授）の3名の職員に加え、博士課程5名（バングラデシュ留学生1名）、修士課程9名、4年生3名の合計20名で現在構成されています。大学院生の約半数は他大学出身者です。本研究室の短縮名は「活性」と呼んで下さい。また、英語名はDepartment of Natural Products Chemistryです。その名の通り、天然物化学、すなわち天然からの「ものとり」を主な研究テーマとしています。地球上の全ての生物種の中でこれまでに有効成分を探すための材料として「ものとり」が行われたものはまだわずかにすぎないといわれています。私たちは、人間と地球環境との共存・保全の立場を十分尊重しつつ、未利用資源の開発と有効成分の探索に力を注いでいます。

現在、私たちは、植物、海の生物（海藻、ウミウシ）、菌類など幅広くいろいろな自然を対象として当研究室独自の天然物ライブラリーをつくり、「ものとり」を行っています。どのような材料を用いていても目指しているところはただ一つ「いいもの」をみつけることです。見出した天然物の精密立体構造の解明や活性構造解析のための天然物誘導体やユニット構造の合成研究も行います。ポストゲノム時代と言われますが、ゲノム情報から導かれた標的分子に結合する低分子リード化合物の探索および最適化は依然として重要であり、この点において有機化学は必要不可欠だと思います。

最近、化学系研究室を志望する学部学生さんが少ない傾向があります。「薬は化合物であり、ポストゲノム時代にこそ化学者の活躍が期待されています」と講義などでは熱く話していますが、地味なイメージがあるのかあまり効果がありません。学部学生さんにも魅力ある研究が展開できるようにさらに努力が必要だと痛感しています。薬友会の皆様のご指導を何卒よろしくお願いします。

(石橋 正己)

## 分子画像薬品学研究室



本研究室は、放射性薬品化学講座IIとして平成11年4月に誕生し、平成13年4月の改組に伴い現在の分子画像薬品学研究室に名称を変更した、5年目を迎える研究室です。現在、本研究室は、荒野 泰（教授）、閔根利一（助手）、上原知也（助手）の3名の職員と、博士課程3名、修士課程9名（中国からの留学生を1人含む）、4年生3名の総勢18で構成されています。

放射線の測定は大変高い感度で行えるため、生体に極微量のアイソトープ化合物を投与することで、安全で苦痛もなく体の中の生化学的变化や生理学的变化を画像として捉えることができます。これは、組織の形態变化を画像として捉えるエックス線やMRI等ではできない放射性薬剤の大きな特長であり、病気の早期診断や病態の解明に有用です。また生体内に投与した放射性物質を癌にだけ大量に集めることができれば、これまで治療が困難だった癌に対しても、新たな治療の道を開くことが期待されます。

現在、研究室では、放射線を利用した新たな診断薬や治療薬の開発を目的として、化学療法や放射線外部照射による癌の治療効果を早期に画像として評価できる薬剤、外科手術でのリンパ節郭清を最小限に留めるために癌が転移する最初のリンパ節を同定する診断薬剤、そして、癌だけに放射性化合物を送達してアイソトープによる癌治療を可能とする新たなDDSの開発を進めています。また、本学近隣の放射線医学総合研究所や千葉大学大学院医学研究院との共同で、脳疾患や心疾患の早期診断や病態解明に役立つ放射性薬剤についての研究も行っています。

本学の近郊には、前述の放射線医学総合研究所を始め放射性薬品の開発研究を行う施設が存在します。これらの施設との共同研究体制を充実して、本邦における放射性薬品研究の拠点となるよう努力したいと考えています。

本研究室は、まだまだ発展途上です。薬友会会員の皆様方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(荒野 泰)

## クラス通信

### 昭和9年卒業（昭九会）

昭和6年に千葉薬専に入学したのが50名。在学の間に追試を受けたりして9年には、どうやら全員が卒業した。

卒業後の翌年に東京神楽坂で第1回のクラス会を開き、以後毎年1回、幹事廻り持ちで或る時は奈良で、またある時は日光で、そして又ある時は觀音寺でなど所を変えて開催していたが、長い年月が経つと、この世からグッドバイする者が増えて現存者は10名を割るようになってしまった。昨年も宮城県の森秀寿君の訃報に接し、なんともやり切れない気持である。最高齢者は既に90才を越し、若い者でも90に近くなってしまったわけである。お互に文通はしたり、電話をしたりしてはいるが、一堂に会することは夢のまた夢である。

虎落笛 また一人消す 住所録

(中村 晃藏)

### 昭和15年卒業（二六会）

級友は、大正7、8年生まれが多い。7年生まれの本年の運勢は「茶柱の二つも立ちて春は来ぬ」で盛運。だが一日一生の心構えと努力が大切。ゆとりや、休養も肝心。めまい、血圧に要注意。8年生まれは平運だが、年輩者は「少しほけ少し悟りし猫柳」でなんとなく意志と希望が逆回りし、裏切られ、物議が出たり、古傷、古い問題が起きやすいと、ご住職の卦。とにかくお互に余生を幽玄に生きよう。

亥鼻が丘の大学院の建設が着々と進んでいます。

(石丸 正美)

### 昭和16年3月卒業（一葉会）

亥の鼻会（年2回）向井、木俣、海老澤他2、3名毎回出席。昨夏 重久君を失い19人（秋山、稻澤、今村、海老澤、海老根、大石、大沼、大山、河合、木俣、小林、小林、小宮、佐々木、張、永山、向井、望月、山岸）。恒例の一泊会が延々、今年は是非共開催したく熟慮中。出席予定8、9人。去年日本薬学会の薬史学会宮木高明先生を偲ぶシンポジウムに投稿出席す。

(海老澤 賢一郎)

### 昭和16年12月卒業（宣葉会）

卒業以来62年を経て、50名の同級生は15名になり、皆80歳を越えた昨今、平成14年には春に南伊豆でクラス会を開催。藤井、国友、君塚、西口、三田、安田の6名で旧交を温め、秋には日本橋で古山君を混えた5名で宣葉会を開く。戦後52回クラス会をもち、今年も開催する予定なので、皆さん元気で頑張って下さい。

(安田 英夫)



### 昭和20年卒業（るっぽ会）

恒例のクラス会を平成14年6月15日新宿中村屋レザミにて開催致しました。集まれるもの15名に、ご高齢ながら非常にお元気な植物の先生、桜井先生が宇都宮からわざわざお越し頂き大いに盛り上がり、お年を感じさせないご様子に一同奮起させられました。

宿題の新会長は田村統司君を決めさせて頂き再会を約して散会致しました。

(山本 包男)



### 昭和22年卒業（臥豚会）

平成14年は休みました。本年は喜寿に当る人が多いので、秋に三太で聞くか、明16年、亥鼻ヶ丘の新棟完

成祝賀会に集うか、多数決にします。各自の希望を03-3356-1630宛 8月15日までに、朝7—8時の間に必ず、千葉の同級生と言って電話して下さい、臥豚会の今後の連絡は薬友会報に載せます。各自の異動は、名簿の葉書で会宛に送って下さい。会の手許金がゼロにつき、忘れずに会報を見て下さい。 (塩崎 國夫)

## 昭和23年卒業

平成14年のクラス会は開局者等、日曜日以外に休めない人が出席し易い様に曜日を変え、4月21日(日)に「新橋亭新館」で開催。その効果か卒業後始めて?の宮尾君が出席の他、数年振りの清水、豊田両君の顔が見えた。反面今迄皆勤組の大塚、杉本君が病欠され16名の出席となる。神楽坂での二次会は休日の為中止。

現在亥鼻に建設中の薬学部の新学舎(総合研究棟)が10月頃には竣工完成の予定と聞いているので、恒例のクラス会の他に秋か来春には新学舎の見学を兼ねた会合を企画したいと考えている。

〔訃報〕02年6月 塚本義二君が急逝。最近迄元気に活躍していたのに誠に残念。ご冥福を祈ります。

〔出席者氏名〕青柳高明、井上富夫、植草茂男、小沢博義、清水正夫、友田正司、豊田義雅、中西安治、長沢吉男、古川和男、吉橋隆宏、三浦清、宮尾隆司、安井恒男、吉川貴司、渡辺吉郎 (三浦 清)



H14.4.21 23年卒クラス会

於: 新橋亭新館 16名出席 (15名で撮影)  
(宮尾君少し遅れた為写っていない)

## 昭和24年卒業

平成13年暮から14年初頭にかけ、角間君、石川君、渡辺君と相次いで訃報を聞きしさかショックを隠しきれない思いがあった。

その為平成14年のクラス会は多少派手にと6月14日ホテルニューオータニなだ万で開催した。幸い14名の参加がありお酒、食事、サービス共良く心地よい観談の時間が持てた一夕であった。本年は千葉県で開催を予定している。 (酒井 正嘉)

## 昭和25年卒業

14年のクラス会は、新橋で11月に開いた。卒業は35名で、出席12名、欠席9名、物故者12名、消息不明2名である。欠席者には、幹事の鈴木(庄)兄が電話等で近況を確かめてくださった。二、三の体調不良者もいたが、平日でもあり仕事等で参加できない人が多く、古希を何年か過ぎても、元気であるので安心した。薬学が、大学院重点化し再編され、亥鼻に移転するとの報告があり、我々の学んだ懐かしい場所への復帰に一同喜んだ。新校舎完成後は、是非、亥鼻でクラス会を行おうということになった。 (小出 進)

## 昭和26年卒業

愈々桜の蕾も膨らむ季節となりましたが、今年は悲しい報告もなく、全員恙なく越年の様子、何より存じます。今年も例年の通り、26屆のはな会が、四月十六日熱海で開催されますが、毎年決まった顔ぶれで、いささか淋しい思いがいたします。今尚現役でご活躍の方々も、骨休めの心算で万障御縁合はせの上ご出席下されば幸甚に存じます。加齢の影響も日増しに加わる日々、御自愛を切に祈りつつ。 (福島 靖)

## 昭和29年卒業

平成14年9月13日、何時もの様に銀座・安具楽「五合庵」でクラス会を開いた。

出席者は、伊藤、遠田、今野、佐藤、千代、那須、夏目、早川、比留間、光岡、三部、道廣、村松、山本、吉積、横井君の17名。薬学の現状や将来に就いて活発な意見を交して楽しい一時を過ごした。

次回も、又、元気に集まる事を約して解散した。

(比留間 和夫)

## 昭和31年卒業(三一会)

平成14年のクラス会は東京で開催された。参加者は19名であり、出席率はクラスの50%であった。平成15年は佐渡を見学してクラス会を開く予定であるが、70歳の坂を越える会員が多いこの頃である。国立大学の独立法人への移行が噂されているが、薬学部はどのように変化し発展するのか、関心を持って見守っている。経営は教育研究と次元が異なるが、亥鼻移転後のさらなる発展を祈念している。 (星 昭夫)

### 昭和32年卒業

昭和三十二年卒、今からほぼ半世紀前になりますが、今年も三月三日（三月二日の振り替え）にクラス会が開かれます。

そして秋、三回目の地方開催のクラス会が開催されます。二年毎に地方在住のクラスメートが幹事となつて親睦を図るわけです。

今年は、古都、奈良に決まりました。奈良には、世界遺産を始め、数多くの見所もあり、久し振りの団欒と併せて、一日ゆっくり旧交を温めたいと今から楽しみにしています。  
(高橋 悼)

### 昭和33年卒業

例年のクラス会、今年は4月に薬学部猪之鼻移転を契機に西千葉・猪之鼻両キャンパスのバツツア。宴会は稲毛海岸のベルシオーネ若潮で。医学部進学の伯野中彦、久田亮夫両ドクターを加えて28名の参加でござやかに。猪之鼻卒青春の夢の跡で再び建つ新研究棟に思いを馳せて散会。  
(大部 順久、渡辺 和夫)



### 昭和34年卒業

2002年鎌倉で、同窓会を開催しました。6月7日は7人で瀬田君のお世話で太平洋クラブ相模コースでゴルフ、8日は15人が午後二時に鎌倉駅に集まって、鎌倉散策をして六時から北鎌倉の「鉢の木」で総勢20人で同窓会を開催しました。沖縄から山川夫妻が参加し、大いに盛り上がりました。二次会は大船駅のホテルメッツで遅くまで話し合いました。翌9日はホテルに泊まった有志と東京から参加した伊藤君を加えて、7人で、鎌倉湖から天園ハイキングコースを歩きました。梅雨前の好天気に恵まれ楽しい同窓会でした。

(神崎 保徳)

### 昭和35年卒業（珊瑚会）

1 昨年のNYテロ事件により予定した海外旅行を取り止め、薬学部創立百年祭以来久しぶりに懐かしい千葉

に総勢19名参加。東京ベイクルーズ船で千葉港より幕張新都心を約50分かけて一望した後、近代日本洋画の先駆者浅井忠等の芸術作品が展示してある県立美術館を見学し、オークラ千葉ホテルで時間の許す限り歓談いたしました。尚昨年受賞慣れした佐藤陽一君が又日本薬剤師会功労賞の栄誉に浴しました。（前田 孝）



### 昭和37年卒業

卒後40周年記念のクラス会は、加藤、星野、真山の3氏のお世話で、平成14年10月6日、文京シビックセンターで開催され、参加者27名となり盛会でした。

5月に大森菜子さんが逝去されました。ゴミ焼却場に関連した環境問題に力を尽くし、癌にも全力で立ち向っていました。また、この度、前年故人から提案された「卒後40周年記念文集の作成」も幹事さんの御尽力で出来上り、クラス会當日に手渡されました。

毎年開催予定のクラス会、次回も元気で再会しようと誓い合いました。  
(池田 守男)

### 昭和38年卒業（三葉会）

昨年のクラス会は松永さんの地元群馬県でした。梅雨前の6月でしたが、好天にも恵まれ、初日は水沢観音、榛名湖を経て草津温泉で一泊、翌日は白根山から軽井沢へと心地よく懐かしい一時が過ごせました。今秋には多くの要望もあって、上原氏の故郷沖縄での開催が計画されています。卒後40周年記念でもありますので奮ってご出席ください。  
(鷺見 常夫)



### 昭和39年卒業

卒業時は36人。死亡や住所不明を除いた33人に、5年ぶりに「12月1日、椿山荘でクラス会」と連絡したら、17人参集した。

卒業式以来の再会で全く誰だか判らなかったB、大学にいるIとKとSとF、最初の会社を退職し次の会社に勤めているEやM、大手企業役員のSやT、調剤業務をしているK・Yなど。全員が還暦をすぎたが、毎日がサンデーでボーッとすごしている人はいない。

自らの薬局を閉鎖したSやYの話に、大資本調剤薬局チェーンの猛攻を感じ、また合併を重ねる外資系企業にあってもリストラされずに部長の地位にあるS、50歳をすぎて研究職を辞し、企業に自身を売り込み職を得たMには、女性でも本当に能力・実力のある人は、性差なく、道が開かれているのだなあと痛感した。有能な同級生に誇りを持ち、2年後の再会を期し、お開きとなった。

(今泉 純子)



平成14年12月1日 クラス会 於：椿山荘

### 昭和41年卒業

男女数半々48名の学友はここ一年以内に皆還暦を迎えます。早3名を失いましたが、定年を迎える後の人生成を模索する時期の人、趣味などで活躍を続ける人、そしてまだまだ忙しく仕事に向き合っている人に三分されるようです。3月7～8日、草津温泉に24名が集い、2年ぶりに旧交を温めます。立崎氏が薬事功労章を受賞、井上氏が日本化学療法学会理事長就任の嬉しいニュースも入っています。

(津田 敏子)

### 昭和51年卒業

S51年卒のクラス会を11月23日に行いました。小雨の降るあいにくの天気でしたが、初参加の人も含め28名が出席しました。「昔と変わってないね」を合言葉

に、30年前の学生時代にタイムスリップし、食事や思い出話、近況報告等で大いに盛り上がりました。しかも、2次会の場所がわからず、全員で新宿の雑踏の中をさまようというおまけまで付きました。次回、2005年初夏の再会を楽しみにしています。

(野中 洋子)

### 昭和53年卒業

薬学部が思い出多い西千葉から亥鼻キャンパス移転の知らせを受け、さびしい思いがありましたが、同級生である戸井田敏彦君が本年4月より母校・生体分析化学研究室の教授に昇格することとなりました。当クラスからは山口直人君（分子細胞生物学研究室）に続き2人目の教授となります。戸井田君は本年度日本薬学会学術振興賞（硫酸化多糖類の機能解析を志向した分析化学）を授賞されました。本年は是非クラス会を開催しあ祝いしましょう。

(齋藤 直樹)

### 平成9年卒業

昨年までは結婚・出産ラッシュでした。しかし、今年は私が情報収集した限りでは残念ながらお話を聞きません。ラッシュが一段落したようです。今年は、現役の方は20代最後の年、一浪の方は30歳となります。そろそろ皆さん会社でも中堅どころとなり、お忙しいのでしょうか。話は変りますが、先日、社内の千葉大の会がありました。出席者は70名ほどでした。同期というのには良いものだなあという感慨にふけった一日でした。

(伊藤 貴夫)

### 平成15年度3年生

学友会の仕事の中核は、先生と学生や学生同士のつながりを実現する橋渡しとなることです。そのため、年間を通して様々な行事を行っていますが、3年生で最も重要な活動には研究室決定があります。薬学部では研究室の配属決定は学生の自主性に一任されているので、学生同士の個々の意見を平等に尊重しとりまとめて先生方に提出したり、学部生から院生までが交流できるような場を設けたりしています。さらには薬学部の亥鼻キャンパス移転に伴い、医学部と看護学部との学生同士の交流も大切にしていきたいです。具体的には亥鼻の学生代表の方から提案を受けていくように亥鼻祭の復活等の話し合いにも参加し、実現を目指していきます。

これから医療現場で求められているチーム医療に

つながるよう、また高い意識を持った薬剤師の育成のためにも人と人のつながりを応援していきたいと思っています。  
(学友会委員 带津 紀子)

### 平成15年度2年生

薬学の世界へ足を踏み入れて一年。早くもこの世界の厳しさ、奥の深さを感じていますが、クラスの皆と励まし合い、時には先生方に励まされ日々頑張っています。大学生活一年目の昨年は各自目標を持って様々なことに挑戦した年だったと思います。これからもこの好奇心、勢い、若さ?!を忘れずに、更なる薬学の魅力にはまってゆきたいと思います。  
(吉武 真奈美)

### 支部だより

#### ◎東京支部

本年は総会を開催する年に当たります。例年の様に11月上旬の金曜日夜、日本橋俱楽部で行う予定しております。

国立大学の存在が問われていること、また医薬分業が進み、調剤薬局の薬剤師不足など種々の問題が指摘されています。母校の発展に寄与するため、会員相互の情報交換の場として、多くの会員が参加してもらえる様な企画を幹事会で考えたい。特に卒業後十数年の活力に満ちた会員の参加を期待したい。総会へのご支援をお願い致します。  
(渡辺 楠)

### 亥 鼻 会

当会は旧制薬学専門部の卒業生の内、日本橋本町付近に勤務地があった方々の有志にリタイヤしても集まろうじゃないかと昭15年卒岩城謙太郎様の発案で誕生しました。

昨年は第19回20回と春と秋に開催し、春の19回は山本薬学部部長様に講師をお願いし「最近の千葉大学薬学部について」の講演を頂き、27名が出席されました。秋は昭和26年卒の加藤義男様に「骨太 医療事故」の題で講演をいただき33名が出席しました。会が始まって10年が経ちましたが、出席の昭和15年卒の方から、昭和26年卒の皆様までお元気にお出席されております。  
(井上 富夫)

### ゐのはな山岳会

今年の「ゐのはな」の活動は初詣をかねた筑波山に始まり、箱根駒ヶ岳・神山、三毳山、御荷鉢山。5月は松洞丸。珍しく3人の学生が参加しおおいにもりあがった。6月は大峰山系へと出かけたが雨で、温泉へ。7月の火打・妙高は、猛暑も加わり苦労したが、きれいなお花でいやされた。8月は日光白根。9月は武甲山。10月の涸沢の紅葉は、これ以上は望めないほどの天候と眺望に恵れ、往時の元気な登山を懷しむ者が多かった。11月は黒川鶴冠山。おさめは雪中登山の足和田山。最近は下山後の温泉と、打上けで一杯飲みながらの語いを楽しみに、10~20名が参加している。月一回の山行をするようになって10年の歳月が流れた。仲間も増え、よろこばしいことである。

(西井戸、佐藤)



### サークル紹介

#### 薬学軽音楽部

私達薬学軽音楽部は、現在1~3年の学部生を中心となり活動しています。所属している部員はそれぞれバンドを組んでおり、現在は部内に4つのバンドが存在しています。

活動日は月、水、木で、主にバンドごとの練習を行っています。最終的には11月の学祭で発表する事を目標に、日夜頑張っている次第です。

ここまで読んで「バンドを組まなきゃ駄目なのか?」と思った方、心配ありません。当サークルではソロ、コンビ、バンド等形態を問いません。また、初心者でもかまいません。これから楽器を始めたい方もどうぞ。聞くだけなのも楽しいですが、自分で演るとまた違う楽しさが出てきますよ!

## 学部だより

### 2002年度 卒業生、修了生の進路

学部卒業 81名：進学（千葉大院修 65名、他大院修 2名）、病院・薬局・企業（日本調剤、山之内製薬、帝人、エーザイ、万有製薬、協和発酵、クロノバほか）。

修士修了 91名：進学（千葉大院博 15名）、病院・薬局・企業・公務員（東京医科歯科大学医学部附属病院、慶應大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、国立国際医療センター、成田赤十字病院、武田薬品工業、山之内製薬、三共、万有製薬、ファイザー製薬、千葉市環境保健研究所ほか）。

博士修了 21名：東京薬科大学、日本大学、(独)産業技術総合研究所、(独)放射線医学総合研究所、国立医薬品食品衛生研究所、山梨大学医学部附属病院、藤沢薬品工業、常磐植物化学研究所ほか。

### 2003年度 薬学部・大学院医学薬学府入学者

学部入学 86名：前期・後期日程試験 75(33)名、推薦選抜 10(1)名、帰国子女選抜 1(0)名（カッコ内は内数で男子学生数）、出身地内訳：北海道 1名、山形県 3名、福島県 1名、茨城県 2名、栃木県 5名、群馬県 1名、埼玉県 9名、千葉県 13名、東京都 26名、神奈川県 10名、新潟県 1名、長野県 1名、岐阜県 1名、静岡県 1名、愛知県 3名、三重県 1名、鳥取県 1名、広島県 1名、香川県 3名、沖縄県 2名。

修士入学 95名：総合薬品科学 65(1)名、医療薬学 30(1)名（カッコ内は内数で推薦入学者）。

博士（薬学領域）入学 23名：環境健康科学 1名、先進医療科学 4名、先端生命科学 2名、創薬生命科学 16名。

><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>><>>

### 2002年度学会賞受賞（2002.5～2003.4の期間内に受賞）

受賞年月日	賞名（授与団体）	受賞者	所 属	受賞業績題目
2002年9月20日	第3回大会優秀論文賞 (情報計算化学生物(CBI)学会)	森 健一 畠 崑之 根矢 三郎 星野 忠次	薬品物理化学研究室	MDシミュレーションによる低分子量Gタンパク質におけるMg <sup>2+</sup> の役割に関する研究
2002年9月28日	Outstanding Oral Presentation Award (The 2nd International Franco-Spanish Workshop on Bio-Inorganic Analytical Chemistry)	小椋 康光	衛生化学研究室	Identification of a novel selenium metabolite in rat urine
2003年3月26日	平成14年度学術振興賞 (日本薬学会)	戸井田敏彦	生体分析化学研究室	硫酸化多糖類の機能解析を指向した分析化学

### 2002年度主催学会（2002.5～2003.4の期間内に開催）

日 時	学 会 名	開催場所（都市）	代 表 者	所 属
2002年6月23日	千葉大学環境健康科学公開シンポジウム 21世紀における漢方と代替医療－生活習慣病の予防医学－	千葉大学けやき会館 (千葉市)	池上 文雄	薬用植物学研究室
2002年7月4日 ～5日	第13回日本微量元素学会	かずさアカデミアパーク (千葉県木更津市)	鈴木 和夫	衛生化学研究室
2002年7月6日 ～7日	医療薬学フォーラム2002 第10回クリニカルファーマシーシンポジウム	千葉県文化会館 (千葉市)	北田 光一	医学部附属病院薬剤部
2002年9月9日 ～10日	第20回シクロデキストリンシンポジウム	千葉大学けやき会館 (千葉市)	山本 恵司	製剤工学研究室
2002年9月19日 ～20日	日本薬学会関東支部 第27回学術講演会 「植物メタボロミクスとメタボリックエンジニアリング」	千葉大学けやき会館 (千葉市)	齊藤 和季	遺伝子資源応用研究室
2002年11月20日 ～22日	第17回国日本薬物動態学会年会	江戸川区民ホール (東京都江戸川区)	北田 光一	医学部附属病院薬剤部
2002年12月11日 ～15日	日米科学セミナー「ヒ素の医学、生物学」	ヒルトンハワイアンビレッジ (米国ハワイ州)	鈴木 和夫	衛生化学研究室

## 2002年度 博士学位授与一覧

### 課程博士(甲号)

氏名	学位名称	論文題目	授与年月日
小林 弥生	博士(薬学)	ラットにおける無機セレン化合物の代謝機構の解明	2002年9月30日
佐俣 和典	博士(臨床薬学)	新規ベンゾフェナジン誘導体NC-190の作用機構の解析	2002年9月30日
小出 友紀	博士(薬学)	スフィンゴシン-1-リン酸受容体拮抗剤の探索研究	2003年3月25日
酒井 信夫	博士(薬学)	コンドロイチン硫酸の簡易微量分析法の開発と免疫化学的活性に関する研究	2003年3月25日
佐々木なほみ	博士(薬学)	胆汁酸結晶の粉碎及び医薬品とのメカノケミカル相互作用に関する研究	2003年3月25日
四十九俊彰	博士(薬学)	pHに依存した大腸菌Na <sup>+</sup> 輸送体の遺伝子発現	2003年3月25日
鈴木 淳	博士(薬学)	ショウジョウバエ機能獲得変異体の解析による糖鎖関連遺伝子の研究	2003年3月25日
長田 敏明	博士(薬学)	海洋産アルカロイド ナカドマリンAの不斉全合成と絶対構造の決定	2003年3月25日
深水 啓朗	博士(薬学)	混合粉碎によるUrsodeoxycholic acidの複合体形成メカニズム	2003年3月25日
藤井 康之	博士(薬学)	クラスA β-ラクタマーゼの分子動力学的研究	2003年3月25日
矢田 修一	博士(薬学)	CS-891の結晶多形と粉碎による非晶質化に関する製剤学的研究	2003年3月25日
山崎 泰代	博士(薬学)	チャボイナモリにおけるカンプトテシン生合成に関する生化学的及び分子生物学的研究	2003年3月25日
吉田 誠	博士(薬学)	脂環式ベンゾフェナンスリジンアルカロイドの合成研究: Homochelidonineの立体選択的全合成	2003年3月25日
上島有加里	博士(臨床薬学)	薬物治療における性差に関する研究 -冠動脈心疾患・脳血管疾患予防のための薬物治療における性差-	2003年3月25日
河野 美幸	博士(臨床薬学)	腸球菌Na <sup>+</sup> 共役型V <sub>ATPase</sub> 及び関連するK <sup>+</sup> 輸送体の構造と機能に関する研究	2003年3月25日
季 斎	博士(臨床薬学)	酸化的ストレスにおける多剤耐性因子MRP2の役割	2003年3月25日
鈴木 章夫	博士(臨床薬学)	基質消失に基づくヒトP450分子種の同定に関する研究	2003年3月25日
角野めぐみ	博士(臨床薬学)	伝承民間薬の生物活性成分の探索と活性評価に関する研究	2003年3月25日
仙田 千晶	博士(臨床薬学)	日本人におけるメキシレチン代謝プロファイルに関する研究	2003年3月25日
寺島 朝子	博士(臨床薬学)	アンジオテンシン変換酵素阻害薬の腎保護効果に関する文献情報 および収集症例に基づく統計学的検討	2003年3月25日
朴 美貞	博士(臨床薬学)	文献情報に基づいた医薬品の評価に関する研究	2003年3月25日

### 論文博士(乙号)

氏名	学位名称	論文題目	授与年月日
千葉 勝由	博士(薬学)	スクアレンモノヒドロペルオキシドの皮膚毒性とその特性	2002年4月15日
西村 和洋	博士(薬学)	S-アデノシルメチオニン脱炭素酵素に関する分子細胞生物学的研究	2002年4月15日
内野 正	博士(薬学)	紫外線の生体影響とそのin vitro評価法に関する研究	2002年7月29日
土屋 静子	博士(薬学)	胃酸分泌の中権調節機構に関する神経薬理学的研究	2002年7月29日
小島 雅澄	博士(薬学)	マトリックス徐放性製剤の設計及びMRIを利用した製剤中の水の運動性に関する研究	2002年12月27日
伊藤 弘一	博士(薬学)	微粒子形成による難水溶性医薬品の溶解性改善に関する研究	2003年3月10日
大森 育	博士(薬学)	唾液および毛髪の血液性検査法の確立による鑑識科学への応用研究	2003年3月10日
蜂須賀暁子	博士(薬学)	神経特異的細胞接着分子であるOBCAMの機能及び構造に関する研究	2003年3月10日
野地 徹	博士(薬学)	炎症に対する新規アデノシン取り込み阻害剤KF24345の有効性に関する薬理学的研究	2003年3月10日
船津 敏之	博士(薬学)	HMG-CoA還元酵素阻害薬のトリグリセリド低下作用およびその機序に関する研究	2003年3月10日
鈴木 健一	博士(薬学)	血小板膜糖蛋白質IIb/IIIa拮抗薬に関する研究	2003年3月10日

## 教職員の異動（2002.5.1～2003.4.30）

2002. 5. 31

原 修 講 師 転出 (薬化学から、名城大学  
薬学部助教授へ)

2002. 6. 30

小口 敏夫 助教授 転出 (製剤工学から、  
山梨医科大学教授  
附属病院薬剤部長へ)

2002. 7. 31

中村辰之介 助教授 転出 (分子細胞生物学から、  
新潟薬科大学薬学部教授へ)

2002. 9. 1

森部久仁一 講 師 採用 (米国ユタ大学博士研究員  
から、製剤工学へ)

2002. 11. 16

牧野 一石 講 師 升任 (薬化学)

2003. 1. 1

石井伊都子 助教授 升任 (病院薬学)  
根本 哲宏 助 手 採用 (東京大学大学院薬学系  
研究科から、薬化学へ)

2003. 2. 1

小野 景義 助教授 転入 (国立医薬品食品衛生  
研究所主任研究官から、  
薬物治療学へ)

2003. 3. 31

今成登志男 教 授 定年退官 (生体分析化学)

2003. 4. 1

戸井田敏彦 教 授 升任 (生体分析化学)  
豊田 英尚 助教授 升任 (生体分析化学)  
池上 文雄 助教授 配置換 (薬用植物学から、  
環境健康都市園芸フィールド  
科学教育研究センター)



## 薬友会より

### 平成15年－16年 主な活動予定

15年 5月 会報13号発行

7月 生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

16年 5月 会報14号発行

7月 役員会・総会・生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

### 平成14年 活動報告

3月 新入生入会案内 (終身会員120名 (含新入  
生101名) 入会)

5月 会報12号発行

7月 役員会・総会 (40名出席)

第11回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開  
催 (千葉大学けやき会館)  
「終りなき感染症との戦い」  
(講師 5名、参加者68名)

12月 役員会・常任理事会 (50名出席)

### 資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に  
終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

1) 終身会員。会費 2万円。昭和48年に開設。(現在  
50%加入) 会員名簿を無料で配布します。

2) 寄付 (1口 2千円から受け付けております)。特

に、終身会費が1万円であった皆様のご協力をお願  
い申し上げます。

3) 会報、名簿への広告掲載にも、ご協力の程、宜し  
くお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも、同封の郵便振込用紙  
がご利用頂けます。

### 各種委員会名簿

総務委員会 ○千葉 寛、細川 正清、小林 カオル、  
村上 泰興 (S36)、野中 浦雄 (S42)、  
矢野 真吾 (前委員長: アドバイザー)

財務委員会 ○柳沢 泰宏、伊藤 覧成、  
村上 泰興 (S36)、野中 浦雄 (S42)、  
上田 志朗 (前委員長: アドバイザー)

名簿委員会 ○山本 友子、星野 忠次、中山 祐治、  
高屋 明子、村上 泰興 (S36)、  
野中 浦雄 (S42)、  
小口 敏夫 (前委員長: アドバイザー)

事業委員会 ○村山 俊彦、荒野 泰、戸井田 敏彦、  
堀江 俊治、平林 哲也、中村 智徳、  
大川 幸子 (S32)、小川 通孝 (S34)、  
上田 志朗 (前委員長: アドバイザー)

会報委員会 ○山口 直人、石川 勉、奥山 恵美、  
小椋 康光、石井伊都子、鈴木扶美子、  
戸塚 裕一、小川 通孝 (S34)、  
加藤 文男 (S47)、角田 範子 (S52)、  
上野 光一 (前委員長: アドバイザー)  
(○印; 委員長)

## 第12回 千葉大学大学院薬学研究院・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

日時：平成15年7月13日（日）13:00～17:00

会場：千葉大学 大学ホールけやき会館（1階大ホール）

（〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33）

主催：千葉大学大学院薬学研究院、薬友会

共催：日本薬剤師研修センター

後援：猪ノ鼻奨学会

セミナー参加費（事前予約、当日参加とも2,000円）

（参加者には日本薬剤師研修センターより3単位が認定されます）

### 生涯教育セミナー 「新しい治療薬とその作用機構」

1) 長谷川 二郎 氏

「アルツハイマー治療薬アリセプトの開発」

（エーザイ株式会社 研究開発本部：昭和43年卒）

2) 新間 信夫 氏

「腫瘍選択性経口抗癌剤、Xeloda の開発と臨床成績」

（中外製薬株式会社 化学研究部：昭和47年卒）

3) 増村 秀三 氏

「HGF 遺伝子治療用医薬品の開発について」

（第一製薬株式会社 開発企画部循環器領域：昭和55年卒）

4) 野地 徹 氏

「炎症性臓器疾患に対する新しいアプローチ—基礎研究の立場から」

（協和発酵工業株式会社 医薬ライセンス部：平成5年卒）

16:00～

宮木高明記念セミナー講演 「創薬における倫理と患者の立場」

佐藤 哲男 先生（千葉大学名誉教授、靈長類機能研究所長）

〔懇親会〕 17:00～（両セミナー終了後）

場所：けやき会館1階 レストラン コルザ

＜振込先：郵便振替口座 00150-5-551796 千葉大学薬友会＞

懇親会参加費は、事前予約は2,500円、当日参加は3,000円

（セミナー、懇親会両方参加の方は 4,500円）

事前予約の受付は6月21日（土）締め切りとなっております。

（懇親会だけの事前予約でも結構です 2,500円）

ご質問などは 村山俊彦（薬友会15年度事業委員会委員長）まで

（薬効薬理学研究室、TEL:043-290-2922, E-mail:murayama@p.chiba-u.ac.jp）

生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒業後35年の1968年（昭和43年）、卒業後45年の1958年（昭和33年）、および1937年（昭和12年）以前に卒業された方々をご招待いたします（懇親会参加費については、別途徴収させていただきます）。該当する皆様は、当日受付にてお申し出ください。この機会に是非母校に足を運ばれ、その変貌振りをご覧頂くとともに、旧友と久しぶりのひとときをお楽しみください。

\*お知らせ\*：前年度の生涯教育セミナーでは、ご招待の案内未記載により関係の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。本年は昨年招待予定でございました1967年（昭和42年）卒業および1957年（昭和32年）卒業の方も生涯教育セミナーご招待の対象者となっております（懇親会参加費については、別途徴収させていただきます）。ご参加お待ちしております。

### 編集後記

日韓主催サッカーワールドカップで若い日本人達が大活躍したこと、一度に2人の日本人ノーベル賞受賞者が誕生したこと、そして、魔法使いの学校で活躍するハリー・ポッターが日本で大人気となったことは、ご記憶されている人も多いと思います。私達に、「日本人の潜在能力」や「優れた教育の重要性」を再認識させ共感を与えてくれたものだと思います。我が千葉薬も、全教官一丸となり学生達を大いに鍛え、次世代を担う人材を輩出し、若い彼らと共に千葉薬から世界に向けて成果を発信し続けます。また、校舎新営亥鼻地区は、遺跡発掘により、土地再利用が繰り返された生活拠点であることも示されており、太古からの要所に千葉薬を移して一層の発展を目指しますので今後とも薬友会会員の皆様の暖かいご支援ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

### 会報委員

山口直人（委員長）、石川 勉、奥山恵美、石井伊都子、小椋康光、戸塚裕一、鈴木扶美子、

小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、上野光一（前委員長：アドバイザー）

